

第1回 美浜町小中一貫校「学校づくりワークショップ」 記録

2023年10月24日 火曜日 19時～21時

1 開会行事（学校教育課長）

2 美浜町小中一貫校学校再編計画の概要について（教育長）

- ・住民説明会での内容と重なるが、初めての方も見えるので再度、概要を説明させていただく。
- ・児童の人数が年々減少。小学校4校で現在、1学年20人前後の1学級編制。今後さらに学校の小規模化が進むことが予想されている。
- ・令和4年度に河和小学校と河和南部小学校を統合し、1年半が経過した。登下校の安全など心配した面もあったが、大きな問題もなく教育活動が進められている。
- ・具体的な児童生徒の推移について、令和5年度は町全体で919人。令和10年度は合計で704人の見込み。
- ・令和4年度生まれで住民登録された人は、河和小学校区以外では、一桁の人数になっている。体育の球技や音楽の合唱・合奏の授業をしていく上で支障が出てくることが予想される。
- ・学校規模を大きくするだけでなく、美浜のよさを生かした教育を推進したい。地域の力を借りて、美浜のよさを知ったり、体験したり、発信したりする活動を通して、美浜を誇りに思う子どもたちを育てていきたい。
- ・日本福祉大学との連携をさらに充実させていきたい（質の高い教育の推進、部活動連携）。
- ・メリットだけでなく課題もある。
- ・建設場所等について、11月26日（日）、12月1日（金）に美浜町総合体育館にて住民説明会を実施する予定である。
- ・建設場所が決定したら、子どもたちの安全確保を第一として、通学方法についての具体的な検討に入っていきたい。
- ・地域との連携無くして教育活動を進めることはできないと考えている。学校と地域が目標と課題を共有・協議をする学校運営協議会の設置を進めていきたい。また、環境整備・読み聞かせなどの学校をサポートしていただける地域の方による組織にも協力していただき、子どもたちの教育活動を支えていただきたいとも考えている。
- ・今後の予定は、ワークショップを本日より4回実施する。住民説明会は先ほどの通り、11月末と12月初めに実施する。
- ・ワークショップでいただいた意見を、生かして基本構想を本年度整備する。
- ・令和6・7年度には基本計画・基本設計・実施設計を、令和8・9年度で建設工事を、令和10年度に小中一貫校の開校を予定している。

- ・美浜町の将来の子供たちのために、オーダーメイドの学校を創りたい。

3 建設場所候補地の補足説明について（教育部長）

- ・住民の皆様の最も関心の高い建設場所については、11月26日（日）の午後と12月1日（金）の夜に住民説明会を実施し、建設場所候補地の検討状況をお伝えできるように準備を進めている。
- ・既存の学校施設の活用を含め、土地の利用規制や関係法令を調査し、総合的な見地から複数の候補地について、学校再編推進委員会（町の部局を越えた横断的な組織）において研究している。
- ・おおよその場所については、町の中央部エリア、日本福祉大学に近い西部エリア、人口集中している河和地区に近い東部エリアの3つのエリアに複数の候補地を設定し、それぞれのメリット・デメリットを洗い出している。法規制をはじめ、財政面、通学の利便性、防災面などを考慮し、具体的な項目ごとに比較・検討している。

4 ワークショップの説明（名古屋市立大学 教授 鈴木賢一 氏）

- ・基本構想とはオーダーメイドの学校づくりにむけ、こんな学校をつくりたい、という思いを設計者に伝えていく段階。
- ・この基本構想の策定に向け、皆さんにいろいろお話をしていただきたい。
- ・昨年度は夢づくりワークショップという形で、夢を語り合ってもらったが、本年度は学校づくりといいことでもう少し具体的にしていきたい。
- ・今日は新しい学校で生活する子どもたちのことについて話し合いたい。
- ・2回目は地域と学校の関係性について、3回目は大学との連携などについて、4回目は基本構想の骨子についての話し合いを考えている。
- ・今日は大人としての理性・教養を捨て、子どもになって新しい学校での楽しい場面を想像していただきたい。
- ・一つ目の視点として、小学生と中学生が学校内で交流している様子を想像していただきたい。
- ・もう一つは、障害のある子と健常な子が学校内で交流している様子を想像していただきたいと思っている。

- ・本日の流れ

- ① 自己紹介
- ② グループワーク1 小学生と中学生が学校内で交流している様子をイメージして
- ③ グループワーク2 ハンディキャップのある子と健常な子が学校内で交流している様子をイメージして
- ④ 話し合ったことの共有 1グループ3分

5 ワークショップ

- ① 小学生と中学生が学校内で交流している様子をイメージして
- ② ハンディキャップのある子と健常な子が学校内で交流している様子をイメージして

6 発表 1グループ3分以内で

・ Dグループ

① 学習面

- ・ 国語や算数だけでなく音楽や体育など芸術教科も含めて中学生の様子を見ることで小学生があこがれをもつ

生活面

- ・ 学習面と同様、掃除や給食などで上級生の姿を見て小学生が進んで活動していくことができる

その他

- ・ 地域の子と顔見知りになることで、登下校も含め防犯上の安全が確保できる
- ・ 部活動を行う中学生の姿を見ることで、小学生の視野が広がる

② 学習面

- ・ 福祉の心が育つ
- ・ 障害のある子の個性を伸ばすことができる

生活面

- ・ すべての子が自己の特性を見つめなおせる

その他

- ・ 安心できる登下校につながる
- ・ 保護者に寄り添いながら、よりよい選択ができるようにしていきたい

・ Aグループ

① 学習面

- ・ 中学校でつまづいたときに、小学校の学習にさかのぼることができる

生活面

- ・ スポーツなどをはじめ、憧れの人ができる

その他

- ・ 運動会や文化祭を一緒にやる。一貫校ならではの行事ができるとよい

② 学習面

- ・ 障害を正しく理解することが大切

生活面

- ・ パラリンピックスポーツを通じた交流

- ・一貫校になるとハンディキャップのある子の数も増える。一緒に活動できる系の仕組みを作る

- ・ Fグループ

- ① 学習面

- ・上級生が下級生に学習を教える。教えるということを通して理解の深まりにつながる
- ・英会話などを一緒にやる
- ・検定などの資格取得について、刺激の仕合につながる

- 生活面

- ・登下校など、中学生が小学生の面倒をみる。けんかの仲裁する場面もある・
- ・体育祭や文化祭の縦割りの開催をはじめ、各種行事を一緒に行う

- ② 学習面・生活面

- ・個性として認めていくことが大切
- ・専門家の配置
- ・意見の取り入れてもらえる学校になってほしい

- ・ Cグループ

- ① 学習面

- ・総合的な学習、生活科の学習での学び合いや教え合い
- ・タブレット端末の活用
- ・合唱や合奏など、小中学生合同の取り組み

- 生活面

- ・ランチルームを作り、小中学生が一緒に給食をとる
- ・スクールバスでの登下校では、縦割りのグループをつくる

- その他

- ・小中学生合同で地域の行事に参加することで、郷土の活動の活性化につながる

- ② 学習面

- ・特性についての理解を深める必要がある
- ・野菜や芋を育てる活動など、一緒にできることは一緒にやっていく

- 生活面

- ・ランチルームを作り、一緒に給食をとる
- ・介助者の配置も必要

- ・ Eグループ

- ① 学習面

- ・中学生から小学生へ教える機会を確保する

- ・教材や制服などを上級生から下級生にあげることで、知り合いになる機会の確保につながる

生活面

- ・中学校3年生と小学校1年生などのペア交流
- ・SNSなど、大人の知らない実体験を中学生から小学生に伝える

その他

- ・上級生に対する下級生の憧れが抱ける活動を充実したい

② 学習面・生活面・その他

- ・パラスポーツの経験を通して、認め合える時間を確保したい
- ・障害は悪いことではなく、特性として理解し合うことを大切にしたい。字幕支援や手話通訳などを配慮することで、一緒のタイミングで笑いあったり悲しみあったりできる
- ・支援する側、される側という二分されない学校であってほしい
- ・クールダウンルームなどができるといい
- ・旧小学校区で交流のできる活動があるといい

- ・Bグループ

① 学習面

- ・中学生から小学生へ教えたり、小学生が中学生に教えてもらったりという交流の場の充実
- ・調理実習をし合うことを通して、おもてなしの心を育てるのもよいのではないか

生活面

- ・掃除や給食などを一緒にやる

その他

- ・開校祭など、新たなイベントを設けることで地域との交流にもつながる

②

- ・交流ありきではないのではないか
- ・交流の場については特別支援学級の子どもの思いに任せてあげたい
- ・特別支援学級の子どもであろうとなかろうと、困ったときに助けてと言える子ども、助けてあげられる子どもを育てていくことが大切

7 まとめ（名古屋市立大学 教授 鈴木賢一 氏）

- ・初めて会った人たちで、また、短い時間の中で充実した話し合いができ驚いている
- ・中1ギャップの問題に対して、小中一貫にすることでシームレスにつながっていく良さがあるとも言われている
- ・学校は学年で分けているため横のつながりが強い。学生に話を聞くと、1学年違うとギャップがありすぎることがよくある。この感覚は人間社会ではおかしいことで、横に

スライスされていることの弊害があるように感じる

- ・小中一貫という小学1年生から中学3年生までが繋がっていくことの大切さについて、ご意見をたくさん言っていただけた
- ・ランチルームなどよいアイデアだと思った。今日は発表になかったが、どの学年でも集まれる図書室や昇降口の在り方も検討していく必要がある
- ・6・3制にとらわれず9年間の中での学年のまとまりについても議論していく必要がある
- ・困り感をもった子どもたちが困ったときに助けてと言えるような学校づくりが大切だと改めて思った
- ・多くの良い意見をお聞きできた。設計に生かしていきたい

8 開会行事（学校教育課長）

- ・アンケートの記入について
- ・第2回（11月27日）の案内について
- ・住民説明会の案内について